

一野におゐて草蒔事、此以前より入組ニかる所に、屋敷さかへと號或鋤目を付、或境を立、草蒔を留る儀曲事より、所詮自今以後、無異儀可蒔者也。

慶長十四酉年八月四日

〔農政本論 中編 中〕野年貢、野役米、野手米、草役米、

此ハ平原曠野ニ段別ヲ請テ、他村ヲモ入會ナドシテ、秣柴、萱等ヲ蒔採リ、年貢ヲ上納スルヲ云フ、或持主ヲ定メタルモアレドモ、野方ハ多分持主ナク、總村持ナル者也、總テ野原ニテモ、野山ニテモ段別ヲ著テ、米永何程取ト定リタルヲ、野年貢ト云フ、草年貢ト唱ルモ即是也、又段別ノナキヲバ野手米永、或野役米ト云、何レモ皆小物成ナリ、野手米永ハ野原等總村持ニシテ、野手ヲ上納シテ、馬草柴、萱等ヲ刈取り、又廣キハ他村ニモ草札ヲ渡シ置キ、米永ヲ納サセテ入會ニスルモアリ、野役米ハ荒野他村ト境界ノ分明ナラザルヲ以テ、後ニ爭論起ランコトヲ慮リ、證據ノ爲ニ役米ヲ上納スル等ナリ、草役米ハ野役米同事ニテ、名目ノ變リタルノミナリ、又野高ト稱シテ、村方ノ内ニ入レテアル類ハ、田畑同様ニテ、本途ノ物成ヲ納ムル也、若又新規ニ役米永ヲ申付ルコトアラバ、審ニ能廣狹ヲ量リ、且又其近隣ヲ見合セ、村方ト對談吟味ノ上ニテ申付ベシ、草代ト唱ルモ即此ト同事ニテ、或ハ他村ニ馬草柴萱ヲ刈セテ、代米永幾程ト極メ、他村ヨリ上納サセル類ヲ草役ト云ナリ、

〔地方落穂集 五〕野山開發損益之事

一野。錢。山錢等も納候場所、田畑に開發を相願候へ共、見分の上高入に可成場所は格別、左も無之見取場にて差置體の所は、縦野山錢と見取年貢と指引、見取の方格別御益有之とも、開發は不可然也、其詮は、知行渡の節野山錢は貳石五斗五升を以高に直し渡す也、當分御益の様にて、見取の分は、高外にて知行渡に成故、御爲に宜しからず、